イメージ心理学研究　2020, 18, 7－11
〔教育講演〕


# 物語世界への没入体験は読者に何をもたらすか

小山内　秀　和

（畿央大学）

近年，物語読解時の読者に生ずる主観的体験がさまざまな領域において実証的に検討されるようになり，態度や信念の変化，楽しみ，満足感，あるいは，読者の社会的能力の向上といった，物語を読むことの効果が数多く指摘されるようになっている。本稿では，物語読解時に読者に生ずる体験として「物語世界へ没入する現象」に注目し，まず関連する構成概念について整理した。その結果，没入体験は，物語内容の表象を基盤として，鮮明な知覚的イメージを生起することや，登場人物への共感，感情移入など，多様な現象から成り立っていると考えられた。さらに，物語を読むことの効果として，社会的能力，とりわけ他者の心的状態を理解する能力である「マインドリーディング」に注目し，これと没入体験との関連を検討した実験研究を紹介する。以上のような研究を通して，物語を読むこととそれによって生ずる没入体験が，人間にとってどのような効果と意義とを有しているか展望する。
**キーワード**：物語読解，物語への没入，社会的能力

## はじめに

物語は人間にとって最も身近な娯楽の１つであり，同時に社会における重要な文化資本の１つでもある。心理学の領域では，文章をメディアとした物語の理解について古くから研究が行われていたが，近年になって読者が物語を読んでいる時の様々な体験を扱った研究が多くみられるようになった。またそれとともに，物語を読むことによる様々な効果についても実証的なデータが報告されるようになってきた。本稿では，物語の読解に関連して生ずる「物語に入り込む体験」に焦点を当ててこれまでの研究動向を概観しつつ，物語を読む体験が読者にもたらす効果について筆者らの研究を紹介する。

## 物語への没入とは何か

物語に入り込むような体験は源氏物語などの古典などにも垣間見ることができるが，これらは心理学的にどのようにとらえることができるだろうか。小山内・楠見（2013）はこれを「物語への没入」と呼ぶが，それによれば没入体験とは，読者が物語を読む行為とその内容とに集中し，物語を現実の出来事のように体験することであるとされる。物語を読む時，読者はその内容を理解するプロセスとして状況モデルと呼ばれる表象を構築する（Zwaan & Radvansky, 1998）。この状況モデルは我々が現実世界を認識，理解するために構築する表象と類似したものであり，いわば状況モデルは読者が物語を読んで構築する現実世界のような世界，いわば「物語世界」だと捉えることができる。小山内他によれば，物語への没入というのは読者が構築していく物語世界の中に入り込む体験であると考えられる。

### 没入に関連する諸概念

何かに「入り込む」という現象は決して新しく発見されたものではない。これまでに没入に関連した概念が数多く提唱されてきた。例えば，異常心理学においては1970年代から，催眠感受性に関連した特性として「没入性」が検討され，また「読みへの没頭」や「空想傾向」などが提唱されてきた。また心理学においてはフロー体験も比較的歴史のある概念であろう。一方で心理学ではないが文芸批評の領域では読者反応といった概念が唱えられてきた。最近では特に物語メディアに対する没入の体験が注目され，「移入」（Green & Brock, 2000）や同一化（Cohen, 2001）といった概念が提唱されている。とりわけ移入は，メディア心理学において現在最も多く研究が行われている概念であるといってもよいであろう（レビューとしてvan Laer, de Ruyter, Visconti, & Wetzels, 2014）。小山内・楠見（2013）は，こうした諸概念をその説明範囲によって整理しなおし，物語への没入体験が図１

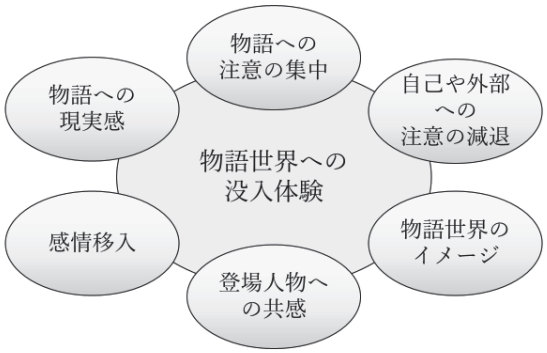


**図1　物語への没入体験を構成する要素**

のような要素で構成された多面的な現象であるのではないかと指摘している。それによれば，没入体験は1）物語への注意の集中，2）自己の意識や自分の周囲に対する注意の減退または消失，3）物語世界の鮮明なイメージ化，4）登場人物の感情をそのまま体験する共感，5）登場人物の状況に対する自分自身の感情としての感情移入，そして6）上記の体験の総体として感じられる物語を現実のように感じる体験，の6つで構成されているという。ただし，こうした体験それぞれには個人差があり，読者はこれら6つの要素のうち一部または全部を体験すると小山内他は述べている。

### 物語への没入の測定

物語を読んでいる際に生じるこうした体験には大きな個人差があると考えられるが，それらを測定するためには，ほとんどの場合尺度が用いられる。上述のような様々な理論の多くで，測定する尺度が作成されている。中でも代表的なものが移入体験を測定する移入尺度である（Green & Brock, 2000; 小山内・楠見, 2016）。移入とは，物語の内容に対して注意やイメージ，感情が統合的に融合する特異な心的プロセスであると定義され（Green & Brock, 2000），実際に物語を読んだ時の移入の程度を測定する尺度が移入尺度である。イメージの鮮明度を中心に没入の体験を問う15の項目で構成されている。またこれ以外にも，物語に対する現実感の強さを測定する物語信憑性尺度や（Yale, 2012），物語の登場人物に対する同一化を測定する同一化尺度（Cohen, 2001），また物語の没入に関する体験を網羅的に測定する物語関与尺度（Busselle & Bilandzic, 2009）などがある。以上の尺度は基本的には「物語を実際に読んで感じた体験」を測定するものであるが，こうした体験の「しやすさ」を測定するものもある。例えば移入尺度については移入傾向という概念が提唱され，測定尺度がつくられている（Mazzocco, Green, Sasota, & Jones, 2010）。一方，文学批評の観点からMiall and Kuiken（1995）は「文学反応質問紙」（Literary Response Questionnaire: LRQ）という尺度を作成している。この尺度は文学作品を読んだ時の読者の反応を測定するものであり，その反応の中には没入体験に相当する概念も含まれている。Miallらは共感，イメージ鮮明性，余暇の逃避，作者への関心，洞察，ストーリー志向，文学的価値の否定という7つの因子を見出している。このLRQの日本語版を作成した小山内・岡田（2011）は，日本語版LRQの因子として「物語世界への没入（本稿では便宜上「共感・イメージ」とする）」「読書への没頭」「作者への関心」「現実の理解」「ストーリー志向」の5つを報告し，文学的価値の否定については日本語版では再現できなかったとしている。これ以外にも，物語没入尺度（Narrative Absorption Scale: Kuijpers, Hakemulder, Tan, & Doicaru, 2014）など新たな測定手法が開発されてきている。

### 物語に没入することの効果

以上のように，物語への没入体験を始めとした読書中の体験は近年注目を集めているが，読書研究においてもう1つ注目されているトピックが「物語を読むことによる効果」である。これまで，物語を読むことによって楽しみや満足感が得られるといった感情面におけるポジティブな効果（Green, 2004），個人の態度や信念が変容するといった説得効果（Green & Brock, 2000），そして言語力あるいは文章理解力などの向上効果（Mol & Bus, 2011）といったことが報告されている。これに加えて近年議論されているものに「社会的能力に対する向上効果」がある。特にKidd and Castano（2013）が報告した，文学作品を読む経験はマインドリーディングを向上させるというデータは大きな議論を引き起こした。マインドリーディングは心の理論とも呼ばれ，他者の心的状態を推測する力のことを指すが，その後に行われた追試的研究からは，読書の経験とマインドリーディングとの関連は見られないという報告も上がり（Panero et al., 2016; Samur, Tops, & Koole, 2017），またメタ分析の結果読書の効果は非常に小さかったという指摘もされている（Van Kuijk, Verkoeijen, Dijkstra, & Zwaan, 2018）。このように物語を読むことによる社会的能力への効果についてはいまだ結論を見ていないが，その要因の1つには読書の体験の個人差があるのではないかと考えられる。とりわけ，物語を現実のように感じるという没入体験の個人差は，社会的能力の効果の表れ方に何らかの関連をしている可能性はあるだろう。そこで，本稿ではこの可能性について検証した小山内・古見・北島・

近藤・所・米田・楠見（2019）の研究を紹介しつつ，この問題について考察する。

**研究紹介 1：大学生を対象とした調査**

小山内他（2019）では，もし物語への没入が社会的能力の効果と関連しているのならば，物語の読書量と物語への没入体験，マインドリーディングとの間に関連が見られるという仮説を立て，これら 3 つを測定して検証している。調査は大学生参加者と小学生参加者を対象に行った。ここではまず大学生を対象とした調査の概要について述べる。

調査には大学生 61 名が参加し，3 つの課題に取り組んでもらった。第 1 は日本語版作家名再認テスト（ART: 小山内・米田・古見・楠見 , 2015）であり，読書量の相対的個人差を測定した。第 2 は LRQ 日本語版のうち「共感・イメージ」「読書への没頭」の 2 つの下位尺度で，これによって物語への没入体験を測定した。第 3 はディレクター課題（古見・子安 , 2012：図 2）であり，これによってマインドリーディングを測定した。調査の結果，ART 得点は LRQ の共感・イメージ尺度と弱い正の相関を示し，ディレクター課題の誤答率は LRQ の 2 つの尺度と弱い負の相関を示した。これを受けて行った構造方程式モデリングによる分析では，図 3（a）のようなモデルが見いだされた。これらの結果は，読書量が多いほど物語世界への没入を体験する傾向が高く，没入を体験しやすい人ほどマインドリーディングが高い傾向にあることを示している。

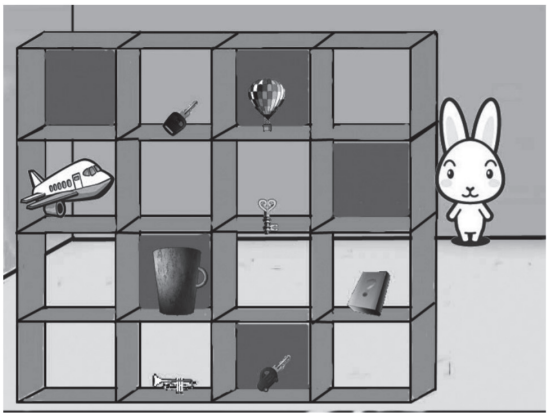

**図 2　ディレクター課題（小山内他 , 2019）**

**研究紹介 2：小学生を対象とした調査**

大学生における結果を受けて，読書による社会的能力の効果の発達的変化を検討するため，小学生を対象に同様の調査を行った。この調査では小学校 5，6 年生 60 名が参加し，4 つの課題に取り組んでもらった。第 1 は絵画語い発達検査であり，参加者の語彙能力を統制する目的で測定した。第 2 は小学校高学年用タイトル再認テスト（TRT: 猪原・上田・塩谷・小山内 , 2014）であり，これは成人用の ART と同様に読書量の相対的個人差を測定するものであった。第 3 は LRQ の児童用尺度（小山内・岡田・楠見 , 2013）であり，成人における調査と同様に「共感・イメージ」と「読書への没頭」の 2 下位尺度を用いた。第 4 は大学生を対象とした調査と同じディレクター課題であった。

語彙得点を統制した分析の結果，TRT 得点は LRQ の 2 つの下位尺度と弱い正の相関を示した一方で，LRQ や TRT はディレクター課題の誤答率とはほとんど関連が見られなかった。また大学生を対象とした調査と同様のモデルを構造方程式モデリングによって検討したところ，TRT 得点と LRQ との間には関連が見られたものの，LRQ とディレクター課題との間の関連は見られなかった（図 3（b））。このことは，大学生においてみられたマインドリーディングへの効果は子どもでは見られなかったことを示している。こうした結果となった理由について小山内他（2019）は，子どもの社会的能力の発達にとって読書経験は大きな影響力を持たない可能性や，物語を読むことによる社会的能力への効果が青年期以降に表れる可能性について指摘している。




**図 3　大学生（a）と小学生（b）における物語読書量，物語への没入体験，およびマインドリーディングの相互関連（小山内他 , 2019）**

## 今後の課題とまとめ

以上のように，読書体験としての物語世界への没入は近年活発に研究が行われている。また没入体験は物語を読むことによる読者への効果を検討する上で重要な変数である可能性が示されている。しかしながら，現段階では多くの課題があることも事実である。第1に，LRQなど多くの質問紙は没入体験を網羅的に測定したり各要素を個別に測定したりするツールとはなっていない。第2に，没入体験がどのように生起するのかのメカニズムが十分に解明されていない。第3に，没入体験の測定は自己報告による尺度に依存しており，読解中の没入を直接的に，また客観的に測定する技術が確立していない。第4に，没入体験は今回紹介した社会的能力に対する効果を始めとして，文学的効果や説得効果，読書行動への効果など様々な効果が指摘されているが，そのいずれにおいても効果の生ずるメカニズムは解明されていない部分が多い。さらに，没入することに負の影響はないのかについても検証する必要がある。一方で，物語への没入は人間の社会的能力の促進に対して重要な示唆を与える可能性があり，またメディア研究や説得研究への知見の応用，あるいは臨床応用につながる可能性も秘めている。認知科学ではプロジェクションという概念が注目されており（鈴木，2020），読書体験の研究は多方面への貢献が期待できるだろう。

## 引用文献


Busselle, R., & Bilandzic, H. (2009). Measuring narrative engagement. *Media Psychology, 12*, 321-347.

Cohen, J. (2001). Defining identification: A theoretical look at the identification of audiences with media characters. *Mass Communication & Society, 4*, 245-264.

古見文一・子安増生（2012）. ロールプレイ体験がマインドリーディングの活性化に及ぼす効果　心理学研究，83，18-26.

Green, M. C. (2004). Transportation into narrative worlds: The role of prior knowledge and perceived realism. *Discourse Processes, 38*, 247-266.

Green, M. C., & Brock, T. C. (2000). The role of transportation in the persuasiveness of public narratives. *Journal of Personality and Social Psychology, 79*, 701-721.

猪原敬介・上田紋佳・塩谷京子・小山内秀和（2015）. 複数の読書量推定指標と語彙力・文章理解力との関係：日本人小学校児童への横断的調査による検討　教育心理学研究，*63*，254-266.

Kidd, D. C., & Castano, E. (2013). Reading literary fiction improves theory of mind. *Science, 342*, 377-380.

Kuijpers, M. M., Hakemulder, F., Tan, E. S., & Doicaru, M. M. (2014). Exploring absorbing reading experiences: Developing and validating a self-report scale to measure story world absorption. *Scientific Study of Literature, 4(1)*, 89-122.

Mazzocco, P. J., Green, M. C., Sasota, J. A., & Jones, N. W. (2010). This story is not for everyone: Transportability and narrative persuasion. *Social Psychological and Personality Science, 1(4)*, 361-368.

Miall, D. S., & Kuiken, D. (1995). Aspects of literary response: A new questionnaire. *Research in the Teaching of English, 29*, 37-58.

Mol, S. E., & Bus, A. G. (2011). To read or not to read: a meta-analysis of print exposure from infancy to early adulthood. *Psychological Bulletin, 137*, 267-96.

小山内秀和・古見文一・北島美花・近藤千恵子・所歩美・米田英嗣・楠見孝（2019）. 物語への没入体験と社会的能力の向上の関連：成人と児童の比較　認知科学，*26*，108-120.

小山内秀和・米田英嗣・古見文一・楠見孝（2015）. 日本人大学生における読書量の測定：日本語版Author Recognition Testの作成　日本心理学会第79回大会発表論文集 .

小山内秀和・楠見孝（2013）. 物語世界への没入体験：読解過程における位置づけとその機能　心理学評論，*56*，457-473.

小山内秀和・楠見孝（2016）. 物語への移入尺度日本語版の作成と信頼性および妥当性の検討　パーソナリティ研究，*25*，50-61.

小山内秀和・岡田斉・楠見孝（2013）. 児童生徒用文学反応質問紙の作成：大学生を対象とした予備的検討　日本心理学会第77回大会 .

Panero, M. E., Weisberg, D. S., Black, J., Goldstein, T. R., Barnes, J. L., Brownell, H., & Winner, E. (2016). Does reading a single passage of literary fiction really improve theory of mind? An attempt at replication. *Journal of Personality and Social Psychology, 111*, e46-e54.

Samur, D., Tops, M., & Koole, S. L. (2017). Does a single session of reading literary fiction prime enhanced mentalising performance? Four replication experiments of Kidd and Castano (2013). *Cognition*

*and Emotion*, *32*, 130-144.
鈴木宏昭（編著）（2020）. プロジェクション・サイエンス：心と身体を世界につなぐ第三世代の認知科学 近代科学社
Van Kuijk, I., Verkoeijen, P., Dijkstra, K., & Zwaan, R. A. (2018). The Effect of Reading a Short Passage of Literary Fiction on Theory of Mind: A Replication of Kidd and Castano (2013). *Collabra: Psychology*, *4*, 7.
van Laer, T., De Ruiter, K., Visconti, L. M., & Wetzels, M. (2014). The extended transportation-imagery model: A meta-analysis of the antecedents and consequences of consumers' narrative transportation. *Journal of Consumer Research*, *40*, 797-817.
Yale, R. N. (2013). Measuring narrative believability: Development and validation of the Narrative Believability Scale (NBS-12). *Journal of Communication*, *63*, 578-599.
Zwaan, R. A., & Radvansky, G. A. (1998). Situation models in language comprehension and memory. *Psychological Bulletin*, *123*, 162-185.

## *What the experiences of immersion into narratives bring to the reader*

*Hidekazu Osanai*
*(Kio University)*

*The Japanese Journal of Mental Imagery, 2020, 18, 7－11.*

Increasing empirical research on subjective experiences during narrative reading has suggested many effects of narratives, such as changed attitudes and beliefs, feelings of enjoyment or satisfaction, and improvements in social abilities. This paper focuses on "immersion in narratives" as one of the experiences in narrative reading. First, we review absorption, flow, and related conceptions regarding immersive experiences and suggest that immersion in narratives arises through the story representation and includes various components of experience, such as vivid imagery, empathy with the characters, and sympathy for the narrative. Next, we introduce recent studies of the effect of reading narratives on social ability and report two studies of the relationship between immersion in narratives and mindreading. Finally, we discuss the human significance or impact of narrative reading and immersion in narratives.
Keywords：narrative reading, immersion into narratives, social ability